けやき

令 和 ３ 年 度

学校評価（最終報告号）

NO. 538

令和4年2月24日

練馬区立南が丘小学校

校 長 後 藤　京 子

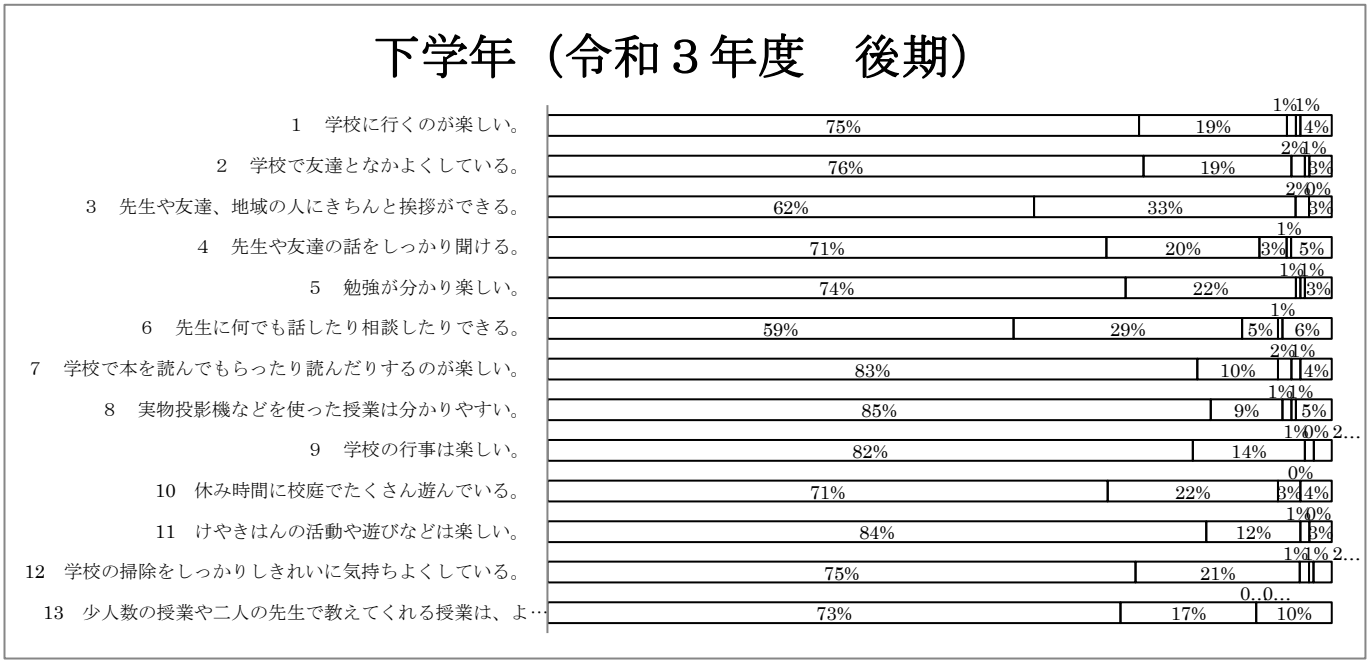
地域、保護者の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。日頃より、本校の教育活動にご理解ご協力をいただきましてありがとうございます。

さて、本年度の教育活動につきましてアンケートにご協力をいただき。ありがとうございました。回答の集計がまとまりましたのでお知らせいたします。この結果を、次年度の教育計画に生かしてまいります。

これからも、様々な面で、地域、保護者の皆様のお力添えが必要となりますので、ご協力の程をよろしくお願いいたします。

結果のグラフは、左より 思う　まあまあ思う　あまり思わない　思わない　分からない　です。

１　下学年児童（175名）アンケート結果



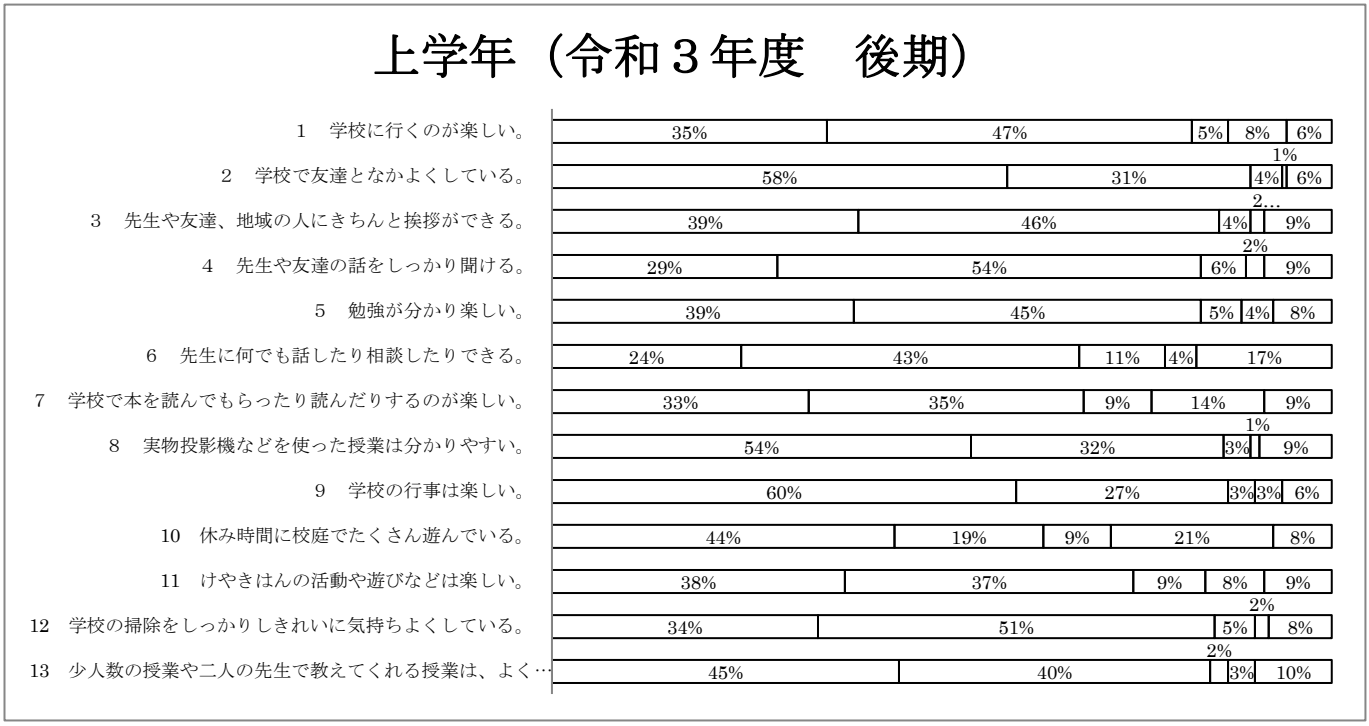
全項目において、「思う」「まあまあ思う」を合わせた肯定的な回答が約９０％以上でした。この結果から、低学年の子供たちについて良好な状態であるととらえられます。

その中でも、質問 11「けやきはんの活動や遊びは楽しい」は８ポイントも上昇しました。「たてわり活動」は本校の特色ある教育活動の一つです。しかし、新型コロナ感染対策のため、交流活動が全くできない期間が長く、またできたとしても制限がある中の活動でした。それでも、楽しさを感じている児童が増えたのはかかわる回数だけではなくかかわり方が良くなったのではないかと考えられます。おそらく上学年の優しさ、下学年の素直さのおかげでしょう。人に対する思いやりの心が成長していることは、とても喜ばしいことです。これからも“がお小の良き伝統”となってほしいと思います。

全体的に肯定的な回答の割合が多い結果でしたが、前期に比べ、わずかにポイントの下がった項目が９項目でした。その中で質問４「先生や友達の話をしっかり聞ける」は課題です。下学年は授業を見ると落ち着かない様子はあまり見受けられません。半年以上が過ぎ、前半期に感じていた緊張感が薄らぎ、前半まで努力してできていたことをしなくなってしまったからではないかと考えられます。また、１学期の終わりの子供たちに比べ、子供たちはそれぞれ成長しています。その分、自分を客観的に見ることができるようにな

り、自分に対する評価が少しだけ厳しくなったという見方もできます。自分を振り返る力は大切な力です。その力を、生活面、学習面で生かし、より力を付け、伸ばしてほしいと思います。

２ 上学年児童（173名）アンケート結果



肯定的な回の割合が８０％を超えたのは１３項目中９項目で、概ね良好であるととらえます。

前期の結果に比べポイントが上がったのは、質問８「実物投影機などを使った授業は分かりやすい」と質問 11「けやきはんの活動や遊びなどは楽しい」の２項目でした。

質問１１については、前期よりの 30 ポイントも大きく上回りました。下学年以上に、高学年にとっても、後半の下学年たちとのかかわりが楽しく感じられていたようです。遊びの様子を見ると、年下の子供たちを受け入れて日頃は見られない恥ずかしそうな表情や頼りにされてうれしそうな笑顔がたくさん見られました。

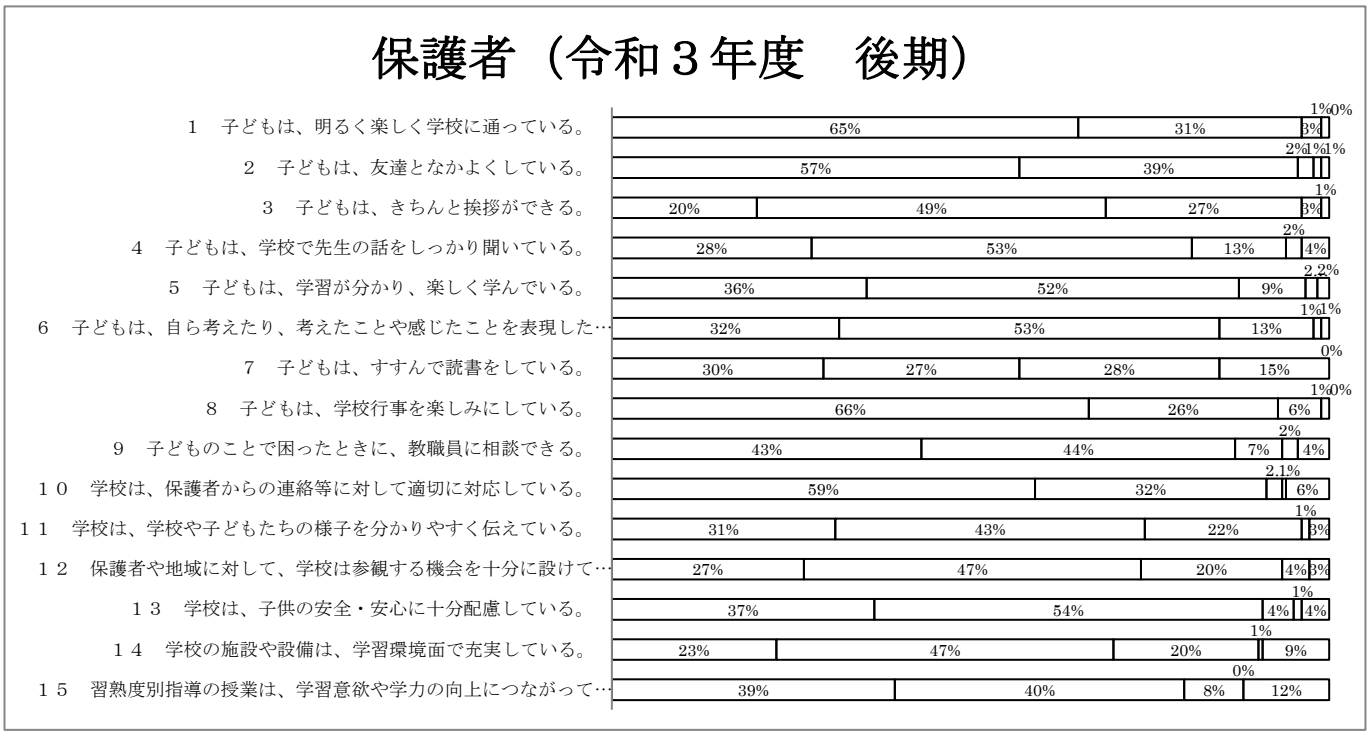
質問８については、タブレットなどのＩＣＴ機器を活用した学習が進められるようになってきたからだと考えます。特に算数、理科ではプログラミング学習が指導計画に組み込まれており、上学年の子供たちはＩＣＴ機器の操作技能はぐんぐん上達しています。子供たちの主体的・探究的な学びを効果的に進めるためのツールとしてＩＣＴ機器を活用できるよう、教員は各教科の指導法に加え、機器の利活用について研鑽を積んでまいります。

下学年同様、前期よりポイントが下がった項目が 10 項目ありました。その中で質問４「先生や友達の話をしっかり聞ける」、質問６「先生に何でも話したり相談したりできる」、質問１０「休み時間は校庭でたくさん遊んでいる」の理由を以下のように考えます。１学期はなわとび発表会を実施しましたが、２学期は運動会、文化的発表会、移動教室などの行事が続いてありました。それぞれ大きな行事です。難しいことに挑戦したり、練習を繰り返したりしながら、本番を迎えてきました。気持ち的にも常に緊張感があったとことでしょう。行事に向けて、そのためにいつもより時間も多く費やしてきたと思います。さらに、休み時間に先生と話をしたり外遊びをしたりと思うようにできなかったことがこのような結果につながったのではないかと考えます。このように、新型コロナウィルス感染対策の影響で、異学年交流ができなかったりグループ活動に制限があったり、いまだに児童にとって、生活しづらい状況になっています。今後もしばらくは何かと制限がかかることが予想されます。学習面・生活面ともに、児童にとってよりよい環境づくりができるよう、さまざま工夫をしていきたいと思います。

質問３のあいさつについては、低学年児童と同様、自己評価は高めです。しかし、保護者や教員、地域の方々からは、低調な挨拶の実態について問題を感じられていることが分かります。それと合わせて、子供たちの「返事」も同様です。どちらも大切なのは「相手意識」です。相手とつながろうとする意識をもてるような取り組みを工夫してまいります。そのことで本校の児童持ち前の「素直さ」がもっと発揮でき、伸びかに成長できるのではないかと期待しています。

３ 保護者（183名回答）アンケート結果

学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
学年人数（人） （アンケート時）	58	54	60	56	62	71
回収人数（人）	39	35	28	33	25	23



「思う」「まあまあ思う」の肯定的な回答が９０％以上は１５項目５項目、８０％以上は９項目でした。

前期に比べ、ポイントが大きく上昇したのが、質問 12「保護者や地域にして、学校は参観する機会を十分に設けている」でした。区の方針に従い、道徳授業地区公開講座、学校公開をさまざま方法で、工夫して公開してきたからだと思います。制限の中での公開でしたので保護者の皆様にはご不便をおかけしましたが、ご協力のもと無事に実施することができました。大変感謝しております。来年度も、本年度の反省を生かし、実施を前提にさらに工夫・努力をし、公開の機会をふやしてまいります。

わずかではありますがポイントが上がった項目の中で、質問９「子どものことで困ったとき、教職員に相談できる」と質問６「子どもは、自ら考えたことや感じたことを表現しようとしている」については教員としてうれしいことです。質問９については、日々、担任は児童の様子について保護者の皆様と連絡を取り合い、情報共有しながら指導に当たっているからと思われます。これからも、子供たちとはもちろんですが、保護者の皆様とも相談し合い、協力できるつながりをより強くしていきたいと切に願っています。また、教職員は今まで以上に、保護者の皆様やご家庭に働きかけたり、学校から積極的に情報を発信したりする努力をしてまいります。

質問６については、本校で何年間も取り組んできた「思考力」「表現力」の校内研究の積み重ねの結果だと考えられます。また、本年度は運動会や文化的発表会など制限がある中、できる限りの表現活動を展開できた

からだと考えられます。

質問７「子どもは、すすんで読書している」、質問３「子どもはきちんと挨拶ができる」の肯定的な回答は特に低くなっています。この 2 項目については今回に限らず毎回課題として浮かび上がってきています。

読書については、1 月は 2 年ぶりに読書ボランティアによる読み聞かせが復活しました。読み聞かせ中は、低学年だけでなく高学年の子供たちも身を乗り出すようにして集中していました。また、図書館司書によると本の貸し出し冊数は増加しているとのことです。子供たちは本を読みたくないというより読む時間を作ることができないのかもしれないと考えることができます。学校では、引き続き図書館司書と協力したり、読書旬間中の図書委員会の活動を工夫したりして、読書を楽しめるようにしていきます。ご家庭でも、長い時間でなくてかまいませんので本を読む習慣をつけていただければと思います。

挨拶については、子供たちの結果と保護者の結果、教職員の認識から考えると、「自分では挨拶している」つもりになっている子供たちの意識がうかがえます。やはり、挨拶に大切なのは「相手意識」です。相手意識をもたせること、挨拶の大切さについては、これからも学校では繰り返し指導し、子供たちに実践力を付けていきます。私たち教職員は今まで以上に気持ちの良い挨拶を心がけ、この姿を子供たちに見せていく、私たちの姿を通して指導していくという意気込みでいきたいと思います。

4　地域　（5名回答）アンケート結果

地域の方からのアンケートについては、自由記述を掲載させていただきます。

【自由記述より】

質問　３…コロナ禍において地域とも折衝がないため仕方がない。

質問　７…チャレンジなどを通じて、地域ともコミュニケーションを今後ともよろしくお願いいたします。

質問　10…体育館の老朽化に伴う雨漏り等気になります。